



世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

# MUSE CONCERTS PICK UP

## 《ヨーロッパ・ツアー記念プログラム》 N響が真価を問う入魂のブラームス

晩年のブラームスが綴った最後の交響曲。ドイツ音楽の伝統への畏敬の念と静かなるロマンがとけあう交響曲史に輝く傑作！

### ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 Op.98

N響が、サヴァリッシュ、プロムシュテット、シュタインといった伝説の巨匠たちと、ドイツ音楽において輝かしい歴史を築いてきたのはオーケストラ・ファンなら周知の事実。2022年よりN響の首席指揮者に就任したファビオ・ルイーダも、イタリア・オペラの分野で世界的な名声を確立する一方で、ウィーン響や（首席指揮者）ドレスデン国立歌劇場（音楽監督）といった、ドイツ音楽の頂点ともいえるポジションで卓越した手腕を発揮してきた。ブラームス、ベートーヴェン、ブルックナー、R.シュトラウス、シューマンなど、ルイーダの紡ぐドイツ音楽は、知情のバランスに優れ、真に〈ドイツ的な精神〉を宿す名演奏が多い。

N響は、今年5月、アジアのオーケストラとしては史上初めて『マーラー・フェスティバル 2025』という世界最高峰の舞台に招待されたのだが、この音楽祭に招待された楽団のラインナップがスゴイ。（登場順に）



©Monika Rittershaus

ロイヤル・コンサートヘボウ管（クラウス・マケラ指揮）

ブダペスト祝祭管（イヴァン・フィッシャー指揮）

N響（ファビオ・ルイーダ指揮）

ベルリン・フィル（キリル・ペトレンコ指揮）

シカゴ響（ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮）

これは取りも直さず、N響&ルイーダがヨーロッパでいかに高い評価を得ているかの証であり、日本音楽界における快挙の1つということができるだろう。

『マーラー・フェスティバル』にあわせ、N響が威信をかけて行う『ヨーロッパ・ツアー』（5ヶ国6都市で8公演）、その前哨戦ともいえるのが、今回の所沢ミューズの特別プログラムである。ヨーロッパ・ツアーのために、マーラーと共にルイーダが選んだのが、ブラームスの交響曲第4番であり、ブラームスは、プラハ、ドレスデン、インスブルックの3都市で取り上げられる。

まもなく創立100年を迎えるN響が、信頼をよせるルイーダとともに総力をあげて取り組むブラームス。演奏史に刻まれるであろう渾身の名演奏を、所沢ミューズで体感いただこう！

5月5日[月・祝]17時開演 N響 ファビオ・ルイーダ[指揮] リーズ・ドゥ・ラ・サール[ピアノ] 公演詳細→

